

東京における共助社会づくりを進めるための取組について
～お互い様の心を大切にした社会を～

〔 提 言 〕 (抜 粋)

平成27年12月16日

共助社会づくりを進めるための検討会

(全文 : <http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2015/12/DATA/20pcp700.pdf>)

本提言の要約

本格的な人口減少社会を迎える東京が持続的に発展するためには、共に支え合う共助社会の実現が必要である。オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、共助社会を実現するために不可欠なボランティア活動を活性化させることが必要となる。

より多くの人々がボランティア活動に参加できるよう、多様な支援を行う。具体的には、求められている情報の収集と管理運営システム、利用しやすい多種多様なメニュー、活動等のために必要な情報を迅速に得られるシステムの整備、幅広い活動と場所等の開発、活動側と受入れ側をつなぐコーディネーターの養成、配置と支援、さらに緊急の取組課題となっている防災等への住民の参加による地域ネットワークの形成について、提案する。

また、活動を身近に感じてもらうために、ボランティア活動が幅広い活動であることを伝える方法、地域で生活する住民同士の交流や助け合い、町会、民生委員・児童委員、ボランティア等の地域の支え合い活動、専門職を中心とする虐待や孤立対応とボランティア活動との連携、外国人等との文化の相互理解と共生、青少年、社会人、高齢者、障害者等のボランティア活動を通じた社会参加についても提案する。

すでに東京では、多様な団体や個人が活動しており、素晴らしい実績も出されている。こうした実績を核に、点を線、線を面、そして立体へと構築していくことで、共助社会の実現が可能になるだろう。そのために、相互に連携を深めて、東京全体の気運を盛り上げていく。

これまでに掲げた取組が長期にわたって継続・発展できるよう、住民参加の仕組みの取り入れやPDCAサイクル、都外の地域との共存、寄附文化の醸成に関する取組を行う。

最後に、様々な方策を実現していくにあたり、推進役として中間支援組織¹や東京都への期待を述べる。

¹ 多元的社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会とNPOの変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とNPOの仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織。

第1章 目指す共助社会東京

本格的な人口減少社会を迎える東京が今後持続的に発展するためには、共助社会の実現が必要である。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、共助社会実現に不可欠なボランティア活動を活性化させることが必要となる。

1. 共助社会とは

東京都長期ビジョンを踏まえ、本検討会で考える共助社会を、互いの違いを尊重する社会、相互理解に基づく社会、協力し合って問題を解決していく社会、明日への希望を実現する社会、お互い様の心が根付いた社会とした。

東京都長期ビジョンにおいては、共助社会の実現が目標として掲げられている。

そもそも、共助社会とは都民一人ひとりが互いに支え合う社会である。本格的な人口減少社会を迎える東京が、様々な社会課題を解決して持続的に発展し、一人ひとりが夢や希望を持って生活できる都市となるためには、共助社会の実現が不可欠である。そのためには、ボランティア活動などの社会貢献活動を多くの方が当たり前に行う社会を目指していく必要がある。

本検討会では、共助社会を以下のように考え、目指すべき方向性として取組を提案する。

① 互いの違いを尊重する社会

多様性の視点は二つある。一つは、それぞれの個性、能力、生き方、世代、国籍、文化等の生活する上での一定の約束を前提に知り合い、認め合い、理解し合う多様性である。もう一つは、共助社会を目指すボランティア活動等の取組の多様性であり、当事者、住民、世代を超えた主体の多様性である。共助社会とは、これらの多様性が認められる社会である。

② 相互理解に基づく社会

共助社会とは、迷いながらも一人ひとりが人間としての誇りをもって、生活してきた姿に共感し、相互に理解を深めることができる社会であり、排除しない社会である。

③ 協力し合って問題を解決していく社会

社会で発生している問題をすべて行政だけが解決することはできないし、行政が解決することが適切でないものも数多くある。一方では、社会には様々な主体が存在し、それぞれの専門性・柔軟性・機

敏性などの特性を活かして、より都民のニーズに適した問題の解決を行っている。共助社会とは、このような協力と連帯に基づく社会である。

④ 明日への希望を実現する社会

それぞれが将来への希望を持ち、それを実現するために切磋琢磨することが許され、それが評価される社会である。

⑤ お互い様の心が根付いた社会

「困ったときはお互い様」という精神、困っている人を目にした時に「他人事ではなく自分事」として捉え、行動できる人・団体を増やしていくとともに、活動しやすい環境を整えることが、求められている。共助社会とは、お互い様の心が日々の生活の営みに根付いた社会である。

この共助社会を目指して、委員会では以下の目標を掲げた。

- T 多様性を尊重し、違いを認めあい
- O 思いやりの気持ちをもって
- K 協力しあい
- Y 夢を描く
- O お互い様の社会づくり